

共助のための地域組織の役割と課題に関する研究 ～秋田県仙北市地域運営体を例に～

秋田大学 学生会員 ○大山 雄平
秋田大学大学院 正 会 員 木村 一裕
秋田大学大学院 正 会 員 鈴木 雄
秋田大学大学院 正 会 員 日野 智

1. はじめに

秋田県仙北市では「地域運営体」という、行政と自治組織の中間的な組織により地域課題への取り組みが行なわれている。この組織は、行政からの財政的、人的支援のもとに、地域が取り組むべき課題を自ら設定し、協働により地域課題を解決しようとする組織である。このような組織による取り組みは、コミュニティを活性化し、持続可能な地域社会の形成に貢献するという点で先駆的な取り組みであるといえる。

本研究では地域運営体の活動により地域がどのように変わったのか、また地域運営体の意義や課題について、地域運営体の役員、住民双方の評価により、共助のために必要な地域組織のあり方について考察することを目的としている。

2. 調査の概要

仙北市には 9 つの地域運営体がある。本研究では平成 22 年 4 月に仙北市地域運営体第 1 号として発足した田沢地域運営体「荷葉」の活動に焦点をあて、活動内容や地域運営体の意義、課題等について、行政担当者、運営体役員に対するインタビュー調査を行なった。その後、役員ならびに田沢地区住民を対象にアンケート調査を実施した。アンケート調査概要を表 1 に示す。

表 1 アンケート調査概要

項目	内容	
調査対象	地域運営体役員	田沢地域住民
配布枚数	37	260
回収数	26	79
回収率	45.90%	30.30%
回答者男女比	男性(21) 女性(5)	男性(43) 女性(36)
回答者年齢構成	40代(1) 50代(2) 60代(18) 70歳以上(5)	30代(4) 40代(5) 50代(10) 60代(24) 70歳以上(36)

3. 地域運営体事業に対する評価

地域運営体が行っているさまざまな事業について住民がどのように評価しているかを図 1 に示す。住民か

らの評価が最も高かった村の喫茶店「たざわ」は「老若男女問わず、語り合える場所」として、診療所の開設日に合わせて週 2 日営業をしている。コーヒー、ケーキの他に地元食材を使用した食事メニューも充実している。次に評価の高かったのは地域内高齢者世帯等の除雪支援事業である。このほか被災地との双方向交流事業や健康教室共催事業の評価が高くなっている。各事業については住民の認知度、参加状況もたずねており、認知度、参加度の高い事業が活動の評価としても高いという結果となった。

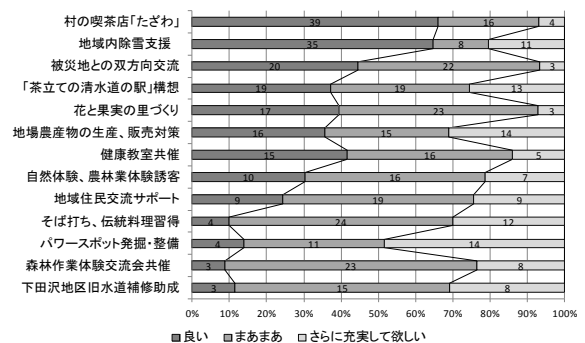


図 1 地域運営体事業に対する評価（住民）

4. 地域運営体発足にともなう地域の変化

地域運営体が発足したことにより、市民サービスの一部や、地域課題への取り組みの働きかけ方が行政から住民へという形態から、中間組織である地域運営体を経ることによって、地域にもさまざまな変化が生じているものと思われる。地域運営体の発足にともなう地域の変化について、図 2 には役員の、また図 3 には地域住民の認識を示している。

地域住民の評価が高い項目としては「要望を頼みやすくなった」、「除雪が良くなった」などで肯定的な意見が多い。役員の評価では「地域住民との交流が増えた」が最も評価が高いのに対し、住民の「地域住民同士の交流が増えた」という認識はさほど高くない。

キーワード：地域運営体、共助、地域コミュニティの衰退

連絡先：〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1 TEL(018)-889-2368 FAX(018)-889-2975

全体的に地域住民の評価では「わからない」、「無回答」が多い傾向にはあるが、「全体的に地域運営体が発足してから地域が良くなった」について否定的な意見は少なく、肯定的な意見が40%、否定的な意見は20%にとどまっている。

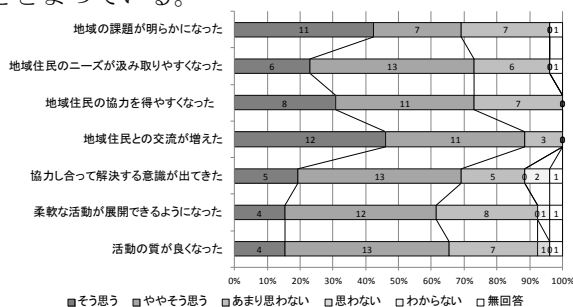


図2 地域運営体発足による変化（役員）

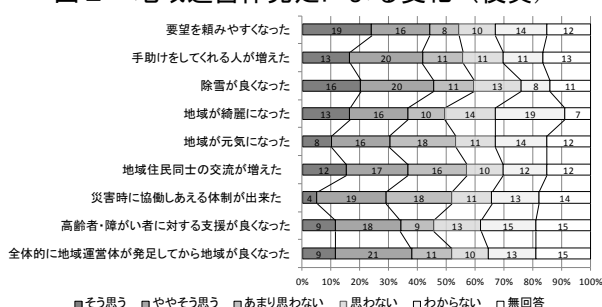


図3 地域運営体発足による変化（住民）

地域運営体発足が地域に与える影響について、外的基準を「全体的に地域運営体が発足してから地域が良くなった」とし、図3の要因をアイテムとして数量化理論Ⅱ類による分析を行なった。相関比は0.86である。各要因のレンジの値を図4に示す。レンジの高いアイテムとしては、「手助けをしてくれる人が増えた」、「要望を頼みやすくなった」、「住民同士の交流が増えた」が高くなっており、これらの要因に対する認識の違いが地域の変化に対する認識に影響していることがうかがえる。

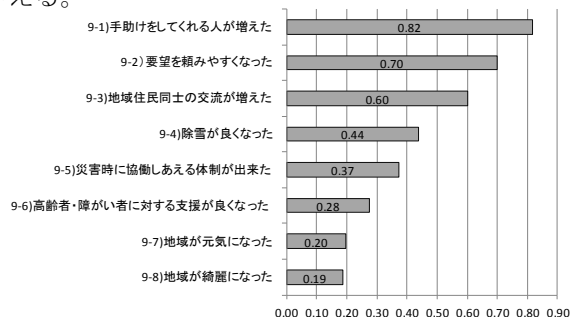


図4 発足後の変化（住民）

5. 地域運営体発足の意義と課題

活動の基盤となる財源を得て、自らの課題設定のもとに課題解決に取り組む地域運営体の意義について、運営体役員ならびに地域住民の認識を図5に示している。全体的にすべての項目の評価が高く、とくに役員

の評価は肯定的である。住民の評価では「わからない」という回答も20%前後を占め、発足して日の浅い地域運営体の評価としては高い評価と言える。中でも「これから発展の可能性がある活動である」の項目については、わからないという回答が多いにも関わらず、50%以上が肯定的な評価をしていることが注目される。

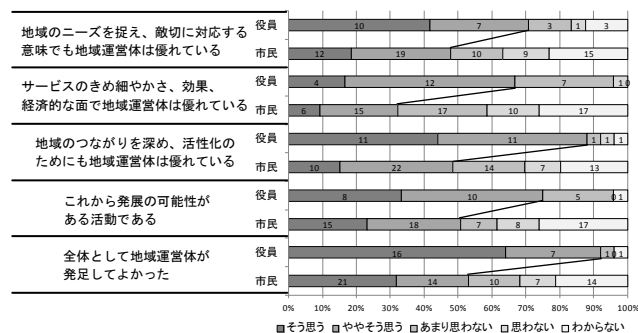


図5 地域運営体発足の意義

地域運営体の課題に対する役員の認識を図6に示している。「活動計画の周知」「活動成果の周知」、「後継者の育成」などいずれも高い割合を占めており、取り組むべき課題が多いことの認識がうかがえる。地域住民が望むこととして「活動に参加しやすい環境づくり」があげられており、協働による地域づくりを促進するためには、情報の共有が不可欠であるといえる。

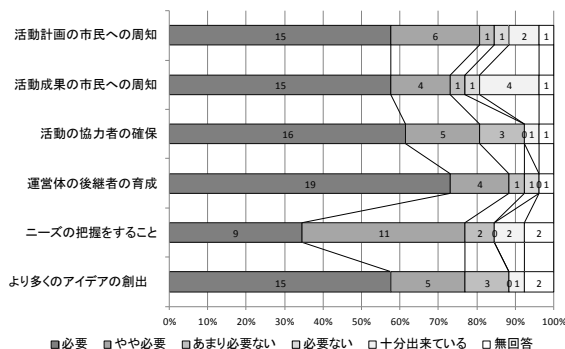


図6 地域運営体の課題（役員）

6. おわりに

田沢地域運営体は発足して3年に満たないものの、全体的にみると現在の活動に対する評価、そして将来の発展の可能性についても、皆が期待をしている地域形態であるということが明らかになった。

地域運営体を例に共助のための地域組織に必要な要因を分析した結果としては、住民同士の交流を促進させること、地域住民のニーズをきめ細かく把握することが第一にあげられる。また、活動内容や成果の開示、住民参加の啓発など情報に関する項目も重要であることが明らかとなった。